

## 館蔵資料紹介 1964年オリンピック東京大会の記憶

昭和39年(1964)の第18回オリンピック東京大会は初のアジア圏での大会というだけでなく、日本にとっては第2次世界大戦の敗戦から急速に復興を遂げ、再び国際社会の中心に復帰する、その象徴的な意味も持った大会でした。2020年オリンピックの開催地が東京に決まると、1964年大会を偲ぶ様々なグッズが脚光を浴び、オリンピック・スポーツのファンやコレクターの間で再び注目が集まりました。今回は当館の収蔵資料の中から1964年オリンピック東京大会にまつわるものの一部を紹介します。

写真①は、聖火リレーのランナーが着用したランニングシャツです。胸に縫い付けられた大会ロゴは、アートディレクターの勝見勝<sup>かつみまさる</sup>とグラフィックデザイナーの亀倉雄策<sup>かめくらゆうさく</sup>がデザインを手がけ、歴代オリンピックロゴの中でも特に高い評価を得ました。ロゴのオリジナルデザインでは、日本の国旗である昇る太陽を思わせる赤丸の下に、金色の五輪とヘルベチカ体の太字で書かれた「TOKYO 1964」が配置されていますが、このシャツに使用されているロゴでは五輪と文字が黒色になっています。布地にオリジナルの金色を再現するには技術面やコスト面での制約があったのかもしれません。

写真②は記念銀貨です。1,000円銀貨の図案は造幣局内でデザインされ、日本を象徴する富士山と桜が採用されています。100円銀貨の図案は公募による聖火と五輪を取り入れたデザインです。実は日本初の記念貨幣であり、後の貨幣収集ブームの火付け役となったことでも有名です。

2020年オリンピック東京大会では、川越の霞ヶ関カンツリー倶楽部がゴルフ競技の会場となり、大きな盛り上がり期待されます。今大会にまつわる様々なグッズも、将来的には2020年のオリンピック大会を偲ぶ貴重な資料となります。ぜひ大切に保管して、後世に残して行ってください。

(学芸担当 平野寛之)



写真① 聖火ランナー着用ランニングシャツ



写真② 1,000円銀貨・100円銀貨(上段が表面・下段が裏面)

●”聖なる壺”

当館の常設展示室には大宮公園内遺跡(さいたま市)出土の弥生時代の壺(複製)が展示されています。この壺は表面が真っ赤に塗られています。

米作りが始まったこの時代、翌年の収穫を約束する種籾は大切にされました。このため、種籾の容器である壺には、神聖な色である朱で塗られることが多かったようです。

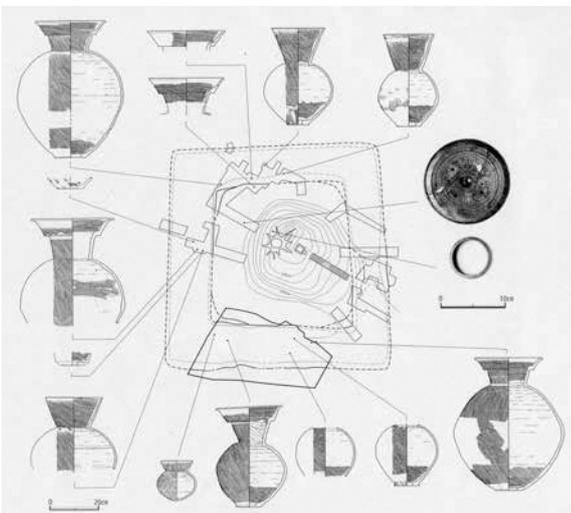


弥生土器・壺 大宮公園内遺跡出土  
写真提供: 埼玉県立歴史と民俗の博物館

●お墓の周りに壺を並べる

こうした聖なる器である壺はお墓での葬送儀礼でも用いられるようになりました。やがて弥生時代後期から古墳時代前期にはお墓の周りを取り囲んでたくさん並べられるようになります。

市内小仙波町4丁目にある古墳時代前期の方墳、三変稲荷神社古墳もこうした”壺”を並べたお墓のひとつです。



三変稲荷神社古墳での壺形埴輪の出土状態

●お墓専用の壺「壺形埴輪」

三変稲荷神社古墳の”壺”を観察してみましょう。容器として使われた壺とは少し違ってしています。

小石を含む粗い胎土、粗雑な造り、底には焼成前にくり抜かれた孔が開けられています。これでは、中に何も入れることができません。これらはお墓に並べるために作られた専用の”壺”で「壺形埴輪」とも呼ばれています。



壺形埴輪 三変稲荷神社古墳出土

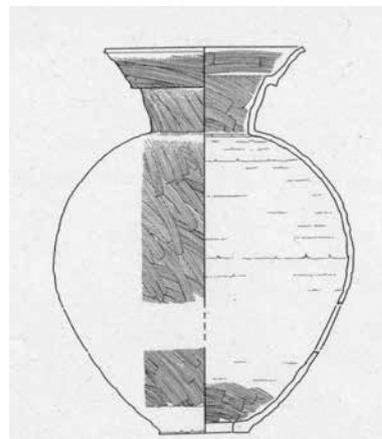


写真提供: 川越市教育委員会

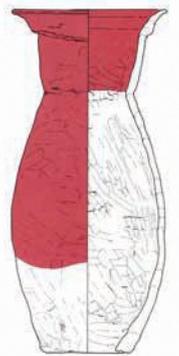
●少しでも大きく、少しでも立派に…

葬送儀礼専用の「埴輪壺」には、他にもさまざまな変化が起こりました。首や胴が長く伸びたり大きく膨らんだり…。大きく見せることにこだわって、形がどんどん崩れていきました。

お墓を少しでも立派に見せるため、ひいては被葬者を偉大に見せるため、壺も背伸びをして見栄を張った結果と言えるでしょう。



三変稲荷神社古墳(川越市)



塚越稲荷塚古墳(寄居町)

(副館長 岡田賢治)

## 博学連携事業報告

博物館と学校とが望ましいかたちで連携・協力しながら、子供たちの教育を押し進めていこうとする取組が「博学連携」です。当館では全国にも先駆けて博学連携を推進してきました。

博学連携事業は、学校が博物館に来館して学習する「博物館利用」と、博物館職員が学校に行き授業等を行う「出前授業」とに大きく分かれます。前者については、今年度は389校32,396名の利用があり、過去最高の学校利用数になりました。また、後者についてはのべ28校に出前授業を行いました。

そして、近年力を入れているのが「盲学校との連携」です。視覚障害のある子供たちにどのように博物館の魅力を知ってもらうか、市内の塙保己一学園の先生方と協力して連携の在り方を探っています。今年度も12月に「藁から学ぼうむかしの暮らし」という内容で、様々な藁製品を触ってもらったり実際に藁で縄をなったりする出前授業を行いました。また、同月に筑波大学附属視覚特別支援学校で開かれた「科学ヘジャンプ」



「科学ヘジャンプ」での活動の様子

という催しでは、全国の盲学校の子供たちに「昔の道具から今の道具を考えよう」という体験的なワークショップを行ってきました。

これからも全ての子供たちに教科書の域を超えた深い学びを提供できるよう、博学連携を充実させていきたいと思えます。（教育普及担当 伊藤直仁）

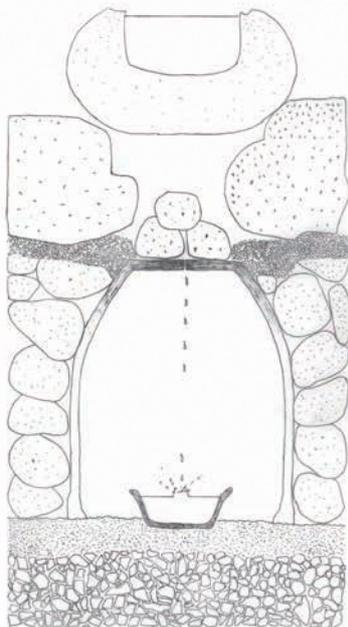
## 博物館ウォッチング

### すいきんくつ 水琴窟

皆さん「水琴窟」をご存じでしょうか。日本庭園における水音を楽しむための装置で、蹲踞や手水鉢と組になる一種の排水設備です。甕の底にためた水に水滴が落ち、反響して響く音色が琴の音に似ていることからその名がついたようです。起源の詳細は不明ですが、江戸時代初期の大名で茶人、作庭家でもあった小堀遠州が考案した「洞水門」が発祥とも伝わります。

博物館にある水琴窟は、市制施行70周年を記念して、川越造園組合から寄贈されました。

また、80周年の際に



水琴窟の構造



博物館の水琴窟

は、同組合より実物を半分にカットしてガラスで見えるようにした構造模型もいただき、中の様子を一目で知ることができます。

日頃の雑踏を離れて、水琴窟の音を聞くと心が洗われるようです。天候や気温などによっても音色はさまざまです。皆様にはどんな音色が響くでしょうか。博物館にお越しの際はぜひ水琴窟をお試ください。

（教育普及担当 峯岸太郎）

# 第48回企画展「川越の地口行灯 ～一力斎とうろう絵の世界～」

会期 令和2年3月14日(土)～5月10日(日)

地口は江戸時代に流行った駄洒落のようなことば遊びです。神社などの祭礼の夜には、こうした地口とそれにちなんだ絵を描き添えた地口行灯が参道にたくさん並びました。

当館には市内大手町で代々地口絵(とうろう絵)を描き続けてきた一力斎の作品を多数収蔵しています。本展覧会ではこれらの作品を中心に、地口絵の素朴な筆づかいと軽妙な笑いをご来館のみなさんにお楽しみいただきます。

また、地口絵の背景にある江戸時代の人々のくらしや文化についても併せて考えてみたいと思います。

展示構成	I 地口行灯のある風景
	II 一力斎とうろう絵の世界
	III とうろう絵を描く
	IV 地口絵からみた江戸文化



門前の地口行灯

## 利用の御案内

### ◆入館料

区分	博物館	川越城本丸御殿	川越市蔵造り資料館	共通入館(観覧)券		
				●博物館 ●美術館	●博物館 ●本丸御殿 ●美術館	●博物館 ●本丸御殿 ●美術館 ●まつり会館
一般	200円 (160円)	100円 (80円)	休館中	300円	370円	600円
大学生 高校生	100円 (80円)	50円 (40円)	休館中	150円	180円	400円

※( )内料金は、団体[20名以上、1名につき]の場合

◆開館時間 午前9時から午後5時まで(ただし入館は午後4時30分まで)

◆休館日 月曜日(休日の場合は翌日の火曜日)

第4金曜日(休日を除く)年末年始(12月29日～1月3日)

館内消毒(6月下旬)

\*開館時間・休館日は、博物館・川越城本丸御殿とも原則として同じ

(館内消毒は博物館のみ休館)

\*蔵造り資料館は、耐震化事業のため休館中です。

◆ガイド ○博物館 平日(開館日) 午前11時・午後2時 土・日・祝日 午前11時・午後1時・午後2時・午後3時  
※予定を変更させていただく場合もありますので、ガイドを御希望の方は、博物館までお問い合わせください。

○川越城本丸御殿 毎月第2・第3日曜日 午前11時～12時・午後2時～3時

### ◆機織り実演・体験(協力:博物館同好会)

○博物館 毎週火・水曜日 午後1時～3時 華の会(裂き織り)

毎週木・日曜日 午前10時～午後3時(12時～1時はお休み) 川越唐棧手織りの会

※予定を変更させていただく場合もありますので、詳しくは、博物館までお問い合わせください。



令和2年 4月							5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4					1	2	①	2	3	4	5	6	
5	⑥	7	8	9	10	11	3	4	5	6	⑦	8	9	7	⑧	9	10	11	12	13
12	(13)	14	15	16	17	18	10	(11)	12	13	14	15	16	14	(15)	16	17	18	19	20
19	(20)	21	22	23	(24)	25	17	(18)	19	20	21	(22)	23	21	(22)	(23)	(24)	(25)	(26)	(27)
26	(27)	28	29	30			24	(25)	26	27	28	29	30	(28)	(29)	30				

7月							
日	月	火	水	木	金	土	
				1	2	3	4
5	⑥	7	8	9	10	11	
12	(13)	14	15	16	17	18	
19	(20)	21	22	23	24	25	
26	(27)	28	29	30	31		

○印は、2館休館(博物館、本丸御殿)  
○印は、1館休館(博物館)

### 博物館の最新情報をパソコン又は携帯電話へ配信します

メール配信を希望される方は、川越市ホームページのオンライン「メール配信サービス」から「博物館メール配信」の登録を行ってください。携帯電話では、右のQRコードから登録の手続きができます。毎月25日に最新の情報を配信します。

※登録料および情報提供料は無料ですが、インターネット接続やメールの受信等にかかる費用は利用者の負担となります。



発行日◆令和2年3月26日

発行◆川越市立博物館

〒350-0053 川越市郭町2丁目30番地1

TEL 049-222-5399

FAX 049-222-5396

Eメール hakubutsukan@city.kawagoe.saitama.jp